

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

12月6日

運に恵まれる

「あんさん、運はよろしいでっか。」

松下電器（現パナソニック）の松下幸之助氏が最終面接で受験生一人一人にかけた言葉です。この問いに、どう答えるかで合否が決まったといえます。

皆さん、どうお答えになりますか。

面接で社長にいきなり「運がいいか」と聞かれて、「はい」と答えられる人は少ないと思います。日本人特有の謙虚さを出して「いや、それほどでも」と答える人が多いのではないのでしょうか。

そのように答えると不合格になったそうです。「はい、運はいいです」と答えると、鶴の一声で合格になりました。

「ついてる、ついてる」

斎藤一人さんの言葉です。あの有名な漢の社長さんです。高額納税者を発表していたころ、何度か納税日本一と公表された人です。

「ついてる」を口癖にすれば、幸せになれると言います。

「僕、課題が大好きなんです。大きな壁は嫌じゃない」

フィギュアスケートに羽生さんがインタビューで答えていました。腰痛でシーズン最初の大きな大会を欠場、中国大会で大けが、NHK杯で満足な演技ができなかった年でのことです。

この3人には共通点があります。物事をポジティブに考えています。

運がいい人を採用したければ、最終面接でくじを引かせればいいという考えもあります。松下氏は、「自分は運がいい」と物事をポジティブに考えられる人を採用したかったのです。

一人さんは、毎日を楽しく暮らすことがあらゆる成功の絶対条件だと言います。病気は食べ物と考え方で引き起こされるという持論をお持ちです。ポジティブに物事を捉えることで、「いいこと」の次に「いいこと」が、またその次に「いいこと」が起きると話されます。

羽生さんは、上の言葉に続いて次のように言います。

「壁があるということは、上があるということ。壁が大きいほど超えた時には上に行っている。上がるのが楽しみだ。」

伝説の経営コンサルタントだった船井幸雄氏が、新入社員を連れてある企業を訪れ「この会社を見て思いつくことを言いなさい」と言う。新入社員は間違いなくダメなところを指摘したと言います。船井氏は

「問題点ばかりを指摘するようでは使い物にならない。いいところを指摘できるようにならないと」と語っています。

子ども達がポジティブになるには、我々が子どもをポジティブに捉えることが必要なのではないでしょうか。

校長 篠崎 勇